

学生から社会人までの

農業インターンシップ

まずは体験してみよう

— 2015年度募集 —



きっと見つかる あなたの農業

全国新規就農相談センター

農業インターンシップとは

農業インターンシップは、学生・社会人の皆さんが全国約300社ある受入農業法人等で就業体験できる制度です。全国農業会議所では、平成11年度から農林水産省の補助を受けて、農業インターンシップを実施しています。その目的は大きく2つあります。

1つ目は就職先として農業という業界を知ってもらうこと、2つ目は私たちが日頃食べている食料とその生産について関心を持つてもらうことです。短い期間といえども農業を体験することは、農業界で働く上での自分の適性や、日本の食料・農業事情の実態を知る貴重な体験になります。

また、すでに農業法人等の就業先が決まっている就業希望者や雇い入れを決めた農業法人等に対しても、事前に就業体験することを勧めています。

農業体験コース

①一般コース

学生、社会人の方が対象のコースです。連続した1週間(5日間)以上の体験日程です。

②週末コース

社会人の方が対象のコースです。土日など体験可能な日を組み合わせて、合計1週間(5日間)以上の体験とします。

採用予定者の就業前体験コース

就業しようとする農業法人等が決まっている方を対象にしたコースです。就業希望者と雇い入れる農業法人が農業適性や知識、経験、技術レベルを確認でき、安心して就業することにつながります。

募集要件

- 農業に関心のある方
- 健康体で農作業ができる体力があること
- 受け入れ法人等の規則に基づきルールの守れる方
- 学生(高校生以上)および社会人

実施要領

- 【体験期間】** 1週間から6週間以内です。
【費用】 参加費用は無料です。ただし、受け入れ先までの交通費は自己負担となります。
【食費・宿泊費】 受け入れ先が負担します。
【その他】 原則として経営者宅・社宅等に住み込みとします。ただし、可能な場合は通勤もできます。体験期間中は、傷害保険(農業実習総合保険)に加入していただきますが、保険料の負担や手続き処理などは全国農業会議所が行います。

体験の心構えとして

農業体験は農業法人等のご厚意の上に成り立っていることを心に留めてください。宿泊費・食費を負担してでも受け入れようというのは、これから日本を担う若者に、農業をもっと知ってもらいたいという意識からです。そこをしっかりと踏まえ、積極的に動き、発言し、精一杯吸収してください。それが受け入れる側の望みでもあります。

農業法人とは?

農業法人とは、株式会社や農事組合法人など法人形態によって農業を営む法人の総称です。全国で18,200法人あり、その数は毎年増加しています。

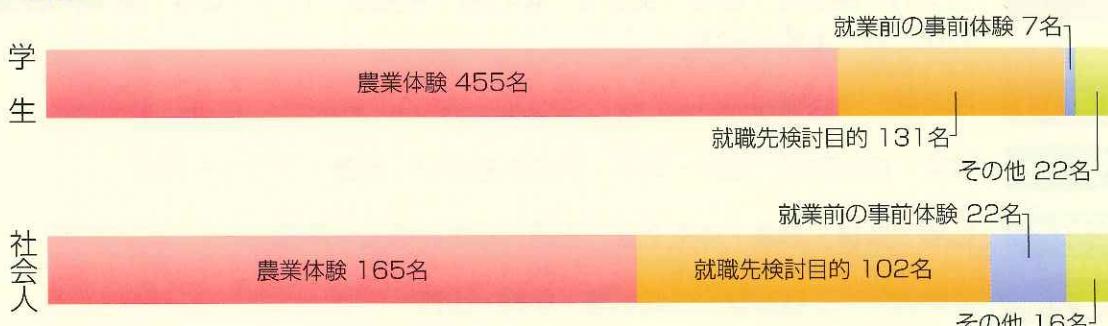
多くの農業法人では、家族が中心となって構成されており、経営規模は小さいものの、一般企業と同様に企画、販売、営業などの仕事もあります。また、販路の拡大や経営・生産の工夫により加工や観光、レストラン経営など、多角化している農業法人もあります。最近では競争力を持ち、海外に生産物を輸出している農業法人や、海外農場進出計画を進めている農業法人もあります。

体験期間や内容などについて

申し込んだきっかけ（複数回答）

- 学校の授業の一環 120名
- 学校でポスター・チラシを見て 193名
- ハローワークやジョブカフェでポスター・チラシを見て 35名
- 全国新規就農相談センターのHPを見て 205名
- 都道府県新規就農相談センターに相談して 25名
- 新・農業人フェアなど就職相談会に参加 107名
- 農業法人からの紹介 145名
- 友人から紹介されて 6名
- その他 128名

目的別参加数

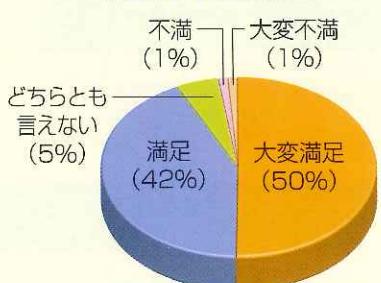


体験内容



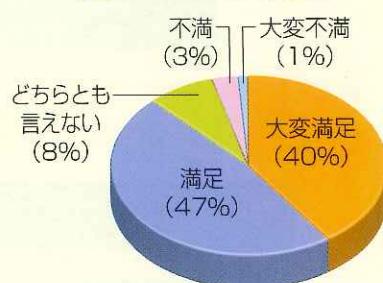
実施後の満足度

体験者の満足度



満足の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・従業員の方々と同じ仕事を体験できた。また他の農家の方々の話を聞くことができた。 ・就職先の業務内容が実際に体験できた ・知識のない私にも分かるよう親身になって教えてもらえた ・農業について理解を深め、自己の適性を確認することができた
不満の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・ずっと天気が悪く台風対策の仕事ばかりだった ・体験内容と環境が受け入情報と違っていた ・単純作業が多かった

受け入れ先の満足度



満足の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな事を吸収しようとしっかり人の意見を聞いていた ・非常に前向きに参加して頂き、相互理解が深まった ・将来採用したいと思う人物と会うことが出来た ・スタッフとのコミュニケーションが図れず、やる気があるのが分らなかった
不満の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・目的が何もない ・自分たちの主張ばかりで困った ・やる気、気力、体力、根性に欠ける

農業インターンシップの体験内容

体験内容は、受け入れ法人等の経営作目により異なります。また、同じ法人等でも参加する時期により体験内容は異なります。1日の作業時間は繁忙期や農業法人等の就業規則にもよりますが、8時間から12時間です。作業は農作業だけではなく、多岐に渡っています。

経営作目ごとの具体的な作業の内容の例 ※1か所・1回の体験で全て行われるわけではありません。

稻 作 わらまき・肥料まき・水管理・稲刈り・乾燥調製・精米・配達

野 菜 種まき・育苗・定植・ホルモン処理・箱づくり・収穫・包装・出荷・トンネル張り・マルチ張り・ハウスの建設

果 樹 袋取り・収穫・箱詰め・(観光農園の)接客・ビニール被覆

花 き 土入れ・種まき・移植・芽かき・挿し木・芽接ぎ・ハウス管理・除草剤散布・市場での仕入れ・出荷・配達

きのこ 菌接種・温室管理

酪 農 搾乳・飼料調製・給餌・哺乳・分娩立ち会い・除糞・ブラッシング

肉用牛 給餌・去勢・治療・体重測定・出荷・子牛の導入・除糞

養 豚 分娩舎での子豚管理・分娩処理・除糞・出荷

採卵鶏 清掃・集卵・軟卵の除去・死鶏の除去・除糞・鶏卵パック詰め・サルモネラ検査

農作業以外の体験内容

社会生活のマナー、レストランの手伝い、直売所の手伝い、試験場・選果場・近隣農家の見学、台風対策とその片付け、ビニールハウスの解体組立など

体験生の1日の例

経営作目	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時
野 菜				トマト・キュウリの収穫		出荷調整・箱詰め		休憩		出荷・配達	芽かき・誘引	片付け等			
果 樹			病虫防除		房作り・摘粒			休憩			かさ・袋かけ				
酪 農		給餌	搾乳	清掃等				休憩		子牛の世話	給餌	搾乳	清掃		
肉用牛			清掃	給餌	管理作業		休憩		管理作業		給餌				
採卵鶏				給餌	集卵	清掃	休憩		洗卵・選別		清掃	集卵			

昨年の体験の様子

野 菜



《育苗》ハウス内で苗を育てることで、苗の生長を抑え、雑草から身を守る作業



《定植》育てた苗を植える作業。黒いビニール(マルチ)で土壤温度を暖め、苗が良く育つよう工夫されている

酪 農



《搾乳》最近は機械化も進み、短時間で多くの搾乳ができる。経営体によっては、1日3回搾乳する



《加工》チーズの加工工程。加熱殺菌することで発酵や熟成を順調に進めて良質なチーズを作り出す

果 樹



《加工》収穫した果樹は生食用の他、ジャムなどの加工品として付加価値をつけて販売する



《販売》収穫物はマルシェ市場などで直売することもある

● 2014年度 農業インターンシップ実施の概要について

体験者について

体験実施者数：926名（学生：619名、社会人：307名）

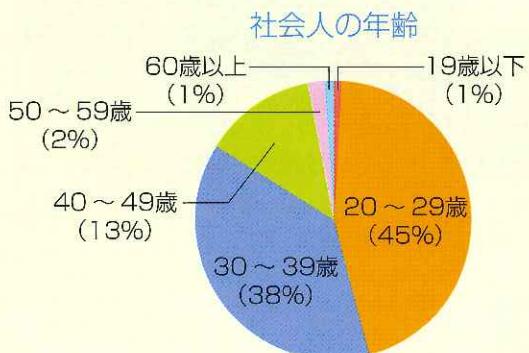
- 一般の農業体験コース： 881名（学生 612名、社会人 269名）
- 採用予定者の就業前体験コース： 29名（学生 7名、社会人 22名）
- 週末体験コース： 16名（社会人）
- 受入経営体数： 336 経営体

学生の内訳

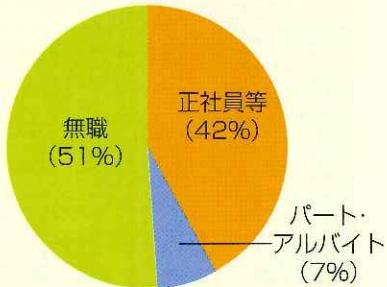
	男	女	計
高校生（普通）	6名	8名	14名
農系高校生	19名	5名	24名
高等専門学校生	33名	11名	44名
専門学校生	7名	4名	11名
農系専門学校生	13名	4名	17名
大学校生	4名	0名	4名
農系大学校生	22名	5名	27名
短大生	1名	5名	6名
農系短大生	2名	1名	3名
大学生	141名	165名	306名
農系大学生	70名	76名	146名
大学院生	8名	4名	12名
農系大学院生	3名	2名	5名
総計	329名	290名	619名

社会人の内訳

	男	女	計
社会人	233名	74名	307名



社会人の就業形態



学生体験者の専攻・単位取得との関係

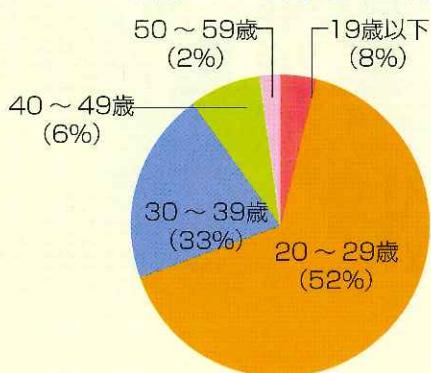
	単位有	単位無	計
農学系学生	62名	159名	221名
農学系以外学生	121名	277名	398名
総計	183名	436名	619名

農業インターンシップ後の雇用について

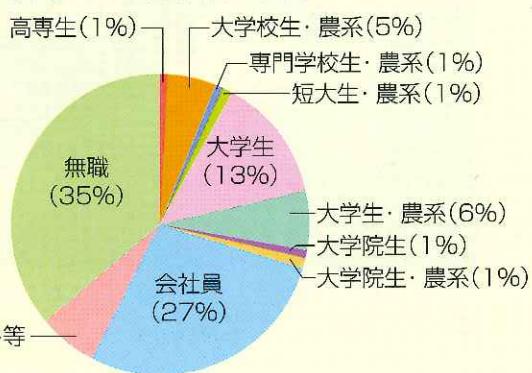
雇用された人数：77名（学生 36名・社会人 53名）
(男性 45名・女性 8名)

雇用した農業法人等の数：47社

雇用された体験者の年齢



雇用された体験者の職業



●農業インターンシップの感想

参加者の受け入れ先に対する感想

社会人男性：非常にフレンドリーに接して頂きました。まったく未経験のため詳しく教えてくださいました。

社会人男性：大変雰囲気の良い環境でした。毎朝、勉強会が開かれるなど、全員が農業に対して真剣に熱意を持って取り組んでいらっしゃると感じました。

大学生男性：同じ社員でも作業内容が大きく異なり、役割分担がされているように感じた。

大学生女性：自然豊かな場所で、とても環境が良く、社員の皆さんもとても親切で楽しく仕事をさせて頂きました。

高校生女性：人が親切で、住居や食事も提供していただき過ごしやすかったです。様々な事を教えてください、ありがとうございました。

大学生女性：ビニールハウスというものに触れたこともなく、有機栽培の知識のない私にも分かりやすいよう親切に教えてください、

食と安全について考える機会をいただき、とても実のある体験ができました。

大学生女性：皆さんのがやりがいを持って働いておられるのを感じました。視野も広く、農業の大切さ、楽しさのお話も作業を通して教えてくださいありがとうございました。

大学生男性：ネットなどで調べた情報と実際現場で行われていることとのギャップがあった。現場は複雑で様々な問題が集積していたが、社員の意欲は高く、これから成長していく可能性を感じた。

大学生男性：社員の方々と自分の年齢がとても近く、話が合い、大変楽しい時間を過ごすことができました。また、作業方法を大変丁寧に教えてくださったおかげで、失敗することなく最終日まで作業に取り組むことができました。力仕事が多く、少し大変でしたが、みんなで協力して農業をしているとてもいい会社だと思いました。

参加者の農業インターンシップの感想

社会人男性：暑い日もあり肉体的にはつらい時もありましたが、太陽の下で働くすばらしさを実家できました。

社会人男性：実際に農作業をしてみて、想像していた以上に大変なこともありましたが、インターンシップに参加する前よりも農業に大きな魅力ややりがいを感じています。これから先のことを考える意味でも参加して良かったと思います。

社会人男性：自分の人生の視野を広げる貴重な時間を提供して頂いたことに感謝しております。今後自分の目標設定をするに当たり、今回の農業インターンシップの経験をいかしていきます。

社会人女性：長期間の研修とは異なり、数週間の単位で参加できるので農業体験をしてみたいと思う人にはとても良い機会になると思った。

社会人男性：かなりの時間を使って農業について話をして頂きました。有機農業は甘くないということや逆に仕事のやりがいについてもかなり話して頂いて私も勇気と希望が強くなりました。仕事もハードだと思いました。

社会人男性：体力的には疲れましたが楽しかったです。勉強しなければならないことがたくさんあることがわかったので、7月からの勤務に向けて、意欲が高まりました。

大学院生男性：2週間という短い期間だったが、毎日汗をかき、心地よい風に吹かれて、心と身体も安らぐ充実した体験ができた。出会いにも恵まれうれしく思う。

高校生女性：全く知識が無かったので初めてのことばかりで新鮮でした。生産者の方の努力といのちの大切さを感じました。

大学生女性：普段何気なく食べているものや食べずに捨てているものが、どのようにして作られているのか、農業と消費者の間に壁がある現状など、農業インターンシップを通じて様々なことを学べました。

大学生女性：短期間で、しっかり学び取れたか不安な点もありますが、充実した数日間でした。農業の良さも大変さも見させて頂き、また色々な作業ができました。

大学生男性：農業の大変さを知る事ができるいい機会になりました。農業に興味のある人は経験して様々な農業を見るべきだと思います。

大学生女性：有機栽培というのが、どれほど大変なのかがよく分かりました。ですが、野菜そのものの力をを利用して育てるというのは野菜にとっても地球にとっても、そして私たちにとっても良いと言うことが分かり、有機栽培についてもっと知りたいと思います。

受け入れ先からの感想

- 農繁期での受入れであると、多くのことを体験してもらえるので、受入れ側としても責任を果たせたと感じました。
- 大変熱心で誰よりもわからないながらもすすんで動いてくれました。
- 農業を知る良い機会になったと思いました。これから社会に出ようとする若い人の意見は参考になりました。
- 期間中に面接を受け、6月より研修生として採用となりました
- 非常に真面目に取り組んでもらいました。早く将来のビジョンが固まるのではないかと思いました。
- 7月から入社の予定。短期間の研修ではあったが、会社や作業のイメージを理解出来たのではないでしょうか。入社後も頑張ってほしいです。
- 社会人週末コースの受入は初めてでした。収穫作業は不慣れな

方は肉体的負荷が大きく、通勤時の心配がありました。本人はいろいろと興味を持ち、社員とも良くコミュニケーションをとっていました。

- 年齢的にはかなり高いので心配しましたが、身体も良く動き真面目な性格で協調して作業ができる有望だと考えました。
- 最後までよく頑張って動いてくれたと思います。取り組む姿勢が真面目なので、将来的に農業でやっていけると思います。
- この時期ハウスでの作業は、とても暑く大変だったと思うが、真剣に作業に取り組んでいました。
- とても真面目に動いてくれて、教え甲斐がありました。今後の就農の際のイメージ作りに役立てたよううれしいです。
- 一生懸命頑張っていました。これから的人生に何かプラスになればと思います。

まずは体験から! 農業インターンシップ体験の流れ

■一般コース、週末コース

STEP
1

公式HPから必要書類をプリントアウト、または事務局に資料請求をしてください。
<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/intern/> ※HPは「農業インターンシップ」と検索すると出てきます。

STEP
2

申込書を提出します。
体験のルールをよく読み「農業インターンシップ 受入農業法人台帳」またはHPの「受入農業法人一覧（体験先）」をもとに体験申込書に必要事項を記入します。受入法人台帳や一覧に掲載されていない経営体でも体験可能な場合もあります。詳しくはご相談ください。体験開始希望日の2週間前を目安に事務局に郵送またはメールしてください。農業実習総合保険の手続きは事務局で行います。ただし、体験に入る前に、保険の内容には必ず目を通しておいてください。

STEP
3

申込書が届き次第、事務局はあなたの希望をもとに受け入れ先を探します。
事務局ではあなたの希望に沿って受け入れ先に申込書を送付します。受け入れ先からあなたに連絡し、簡単な面接をする場合もあります。受け入れの決定後、事務局からあなたに連絡します。

STEP
4

受け入れ先と直接連絡を取って、持ち物や交通手段等を相談してください。
体験スタート！

STEP
5

体験終了後、農業インターンシップ体験報告書を事務局へ郵送またはメールしてください。

終了

■採用予定者の就業前体験コース

詳しくは HP をご覧いただけます。下記までお問い合わせください。

運営

全国農業会議所 全国新規就農相談センター

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル2F

TEL:03-6910-1126 FAX:03-3261-5131 E-mail:guide@nca.or.jp

お問合せ・資料請求・お申し込み（事務局）

公益社団法人 日本農業法人協会

〒102-0084 東京都千代田区二番町9-8 中央労働基準協会ビル1F

TEL:03-6268-9500 FAX:03-3237-6811 E-mail:intern@hojin.or.jp

農業インターンシップ

検索

<http://www.nca.or.jp/Be-farmer/intern/>

